

2	一宮	朝日西小学校	カミヤ	ノブコ
			名前	神谷伸子
分科会番号	8	分科会名	音楽教育	

研究題目 音楽のよさや楽しさを感じ、主体的に音楽活動に取り組もうとする児童の育成  
 ー音に合わせて動いてみよう（1年生鑑賞の学習）ー

## 研究要項

### 1 はじめに

これからの社会で私たちに求められているのは、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくのかを考え、他者とともに生き、主体的に判断し、新たな価値を生み出すことである。学校教育では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して「生きる力」を育成することがより一層求められており、どの教科・単元においても大切にしていきたいと思います。

音楽科においては、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するという目標の実現のため、思いや意図をもって音楽を表現したり、味わって聴いたりするなど、一人ひとりが感性を豊かに働かせながら主体的に取り組む態度を大切に、楽しい音楽活動を展開することが重要であると考えます。

### 2 主題設定の理由

本学級の児童は、活気があり、音楽の授業を楽しみにしている児童が多い。常時活動で行うリズム練習や発声練習にも、意欲的に取り組んでいる。また、歌うことや楽器を演奏することが大好きで、曲のリズムを体で感じ取りながら音楽を楽しんでいる様子が見られる。1学期には、「ゴーアンドストップ」の鑑賞で速度や強弱に合わせて身体表現をした。曲の途中で音がなくなる部分は体の動きを止めるなど、よく聴きながら体を動かす活動を通して楽しんで学ぶことができた。「サンダーバード」「道化師のギャロップ」「なみをこえて」の鑑賞では、マーチのリズムを感じ取って元気よく行進したり、軽快な拍に合わせて駆け足をしたりした。3拍子の流れに合わせて体を動かしながら拍を感じ取ったりして、積極的に体を動かして表現することができるようになってきた。その一方で、体を動かしてはいるものの、曲の雰囲気や曲想に合っていない動きをしていたり、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉にするのを難しく感じ、友達に自分の思いを伝えられなかったりする児童もいた。そこで、その曲に合った身体表現をするとともに、音楽を聴いて感じたことを自分の体験と結び付けるなどして、低学年なりの言葉で相手に分かりやすく伝え合うことのできる児童を育成するため、本研究主題を設定した。

### 3 研究の内容

#### (1) 研究の仮説

本研究を進めるにあたり、次のような仮説を立てた。

【仮説1】 リズム遊び（音に合わせて体を動かす）を学級の仲間とともに繰り返し行えば、児童は音楽のおもしろさや楽しさを感じ取り、音楽に対して親しみをもつであろう。

【仮説2】 音に合わせて体を動かしながら鑑賞する機会を増やせば、鑑賞に対する感覚が育ち、音楽の表している様子をイメージし、聴き取ったことと、感じ取ったことを伝え合うことができるようになるであろう。

## (2) 目指す児童像

- 音楽に親しみ、音楽のおもしろさを感じ取ることができる児童
- 体を動かしながら音楽を聴くことで、音楽の構造に気づくとともに、音楽の様子を感じ取ることができる児童
- 音楽を聴く楽しさを味わい、友達と進んで身体表現をしながら感じ取ったことを伝え合える児童

## (3) 研究の方法

### 【手立て①】身体表現を取り入れた常時活動

音の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴く力を育てるために、授業の始めに常時活動としてピアノの音に合わせて歩いたり、走ったり、スキップをしたり、楽器を演奏したりする活動をする。ピアノの音をよく聴いて、音に合わせて自然に動ける力を養う。

### 【手立て②】「ミニ鑑賞」の時間

曲想と音楽の構造との関わりに気付く力を育てるために、授業の10分程度の時間や、朝の学習タイムの時間を使って「ミニ鑑賞」を行う。曲名は提示せずに、曲を聴いたイメージから曲名を考える活動を行う。いろいろな曲に触れ、その曲の特徴を聴き取ったり、おもしろさを感じ取ったりする経験を増やしていく。

## 4 研究の実践と考察

### 【手立て①】身体表現を取り入れた常時活動

#### (ア) ピアノの音に合わせた身体表現

5月からピアノの音をよく聴き、4分音符と8分音符のリズムをカスタネットで打つ練習をした。それにより、ピアノの音を聴くと、体が反応して、4分音符か8分音符、どちらのリズムでカスタネットを叩けばよいかすぐにわかるようになった。(資料①)

また、曲に合わせて体を動かす活動では、「人の体は触らない」というルールを守らせて身体表現を行った。回数を重ねることで、音にすぐ反応して、友達と楽しそうに活動するようになった。(資料②)



#### (イ) 「いいおとみつけて」でのリレー遊び

打楽器(タンブリン・すず・トライアングル・カスタネット)のいろいろな奏法を学習した。強く叩く、弱く叩く、シャラシャラ鳴らす、チリチリ鳴らす、など、いろんな音が出ることを確認して、音のリレーをした。一人が鳴らし、それをみんなが真似するという活動は、児童たちもとても好きだったので、繰り返し行った。慣れてきたころに、「よびかけとこたえ」を意識しながら行うよう声掛けをし



そして、9月にはこれまでのミニ鑑賞で培った力を確認するため、教科書の教材「おどるこねこ」で音楽の様子を感じ取る活動をした。(資料③)

資料③

	学習活動 (主な発問・予想される反応)	指導上の留意点 ◆評価の観点
常時活動 (既習確認)	1. 速度・曲の雰囲気に合わせて体を動かす。	・ピアノの音をよく聴いて、曲の速さや曲想に合わせて動くようにさせる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">速度</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">変化</span>
(課題把握)	2. 本時のめあてを知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□のきもちになって きこう</span>	・□に入るのは、動物の名前であり、それを後で考えることを伝える。
本活動 (自力追究)	3. 「おどるこねこ」の特徴を聴き取る。 (1) 曲の最初の部分を聴いて、何の動物の鳴き声を表現しているのか考えながら聴く。 C: 「にゃー」と言っているように聞こえる。 C: いるかみたいな声にも聞こえる。  (2) Bまで曲を通して聴き、AとBでは音楽の感じが変わったことを気づかせる。 C: Aではたくさん「にゃー」と聞こえるよ。 C: たくさんねこの鳴き声が聞こえていたのに、聞こえなくなってしまったところがあるよ。	・鳴き声ができる場所は、手を挙げさせる。 ・ねこ、いるか、ぞう、犬の絵を前に掲示し、どの動物かを考えさせる。 ・意見の交換後、ねこの鳴き声を表現していることを伝える。□に入る言葉は「ねこ」であり、「おどるこねこ」という曲を今から聴いていくことを伝える。 ・ペアでねこの絵のついた棒を持ち、ねこの鳴き声が聞こえるところで、棒を一回転させる。 ・棒を一回転するのに慣れるまで、曲を何度も聴く。 ・曲に合わせて体を動かし、鳴き声のところが呼びかけとこたえになっていることに気付かせる。 ・Aは、ねこの鳴き声が反復して出てきて、Bになると曲の雰囲気が変わり、ねこの鳴き声が聞こえてこないことに気づかせる。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">反復</span>
(全体追究)	(3) ねこの鳴き声が聞こえるところ(A)と鳴き声が聞こえないところ(B)の違いを考える。 T: AとBではねこのどんな様子を表しているのでしょうか。 C: Aは速さがゆっくりしているから、ねこがのんびりしている感じがする。 C: Bのところは曲が速いから、ねこが鬼ごっこをしているみたい。	・Bの動きをペアで考えさせる。Aとの変化に着目させる ・Bの後に、もう一度Aに戻ることを確認させ、速度の違いに気付かせる。 ・鳴き声が聞こえるところは、ねこがどんな様子か、鳴き声が聞こえていないところは、ねこがどんな様子を表しているのかを、ペアで動きながら考えさせる。
(確認)	4. 「おどるこねこ」を最後の部分まで聴く。 ・犬がほえている。 ・ねこがにげているみたい。	◆AとBの曲想の違いに気付き、音楽に合わせて体を動かすことができたか。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【知・技 観察】</span> ・速度が急に速くなることに気付かせる。 ・3連符が続く、音程がどんどん高くなっていくことにより、どんな様子表現しているか、考えさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度がすごく速くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の鳴き声に着目させる。</li> <li>・音楽からねこの様子を自由に想像させる。</li> <li>・教師がバイオリンで「にゃお」の音を演奏する。実際のバイオリンの音色を聴き、「にゃお」の音がバイオリンで表現していることのおもしろさを感じ取らせる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">音色</p>
<p>まとめ (価値づけ)</p>	<p>5. 曲のおもしろかったところを発表して本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器で本当に「にゃお」と聴こえたよ</li> <li>・最後は犬にほえられるところがおもしろかった。</li> <li>・バイオリンでねこがお話している様子を表していたよ。</li> <li>・A、Bの後、またAが聴こえたよ。</li> </ul> <p>6. 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1曲を通して「おどるこねこ」を聴かせる。</li> <li>・友達の発表を聞くことにより、友達の感じ取ったおもしろさも認めさせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【主 発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで考えたBのところの動きを発表し、この曲を誰かに紹介する文を書くことを伝える。</li> </ul>

資料③3(2)の活動では、曲の中での鳴き声の部分を確認した後、「次はこの棒をもってやってみよう」と猫の絵がついた棒を児童に配付した。教科書では、鳴き声が聴こえるところで、手をつないでぐるっと回る活動が紹介されているが、棒を回す活動を通してペアで動きを考えることができた。(資料④)そして、ねこは何をしていたか聞いてみると、鳴き声が聴こえるところは、「おどっている」「コンサートにでているみたい」「あくびをしているみたい」と表現し、速さは「ゆっくり、のんびり」「途中からちょっと速い」と答えていた。



資料③3(3)の活動では、鳴き声が聴こえなくなるまで聴いた。そうすると、動きが止まってしまったので、「どうして棒をまわさないの？」と問いかけると、「鳴き声が聴こえないから」と答えた。「鳴き声が聴こえないところではねこは何をしているのかな？」と問いかけ、もう一度曲を聴かせると「ジャンプしている」「運動している」「怒ってひっかいている」「びっくりしている」と答えた。鳴き声が聴こえないところをB、鳴き声が聴こえるところをAとして、AとBの違いをよく聴きとり、速さの違いにも気付くことができた。ほとんどの子が曲に合わせて積極的に動いていた。

資料③5の活動では、「今日の曲のおもしろかったところを最後に聞くから、最後までみんなで動きながら聴いてみよう。最後(コード)のところも曲に合わせて動いてみよう」と伝えて全部聴いた。子どもたちは最後までとても楽しそうに体を動かして聴いていた。ふりかえりでは、「犬の鳴き声がおもしろかった」「最後がどんど

ん速くなる場所がおもしろかった」「Bのところ、友達と動きが同じでおもしろかった」「ねこの棒を回すのがおもしろかった」など、たくさんの意見が出た。

授業が終わった後も、教室で「楽しかったね」「まさか動きが同じになるなんて」と今日の授業の話をしていたので、本当に音楽を楽しむことができた実感した。



授業の様子

### 5 研究のまとめと今後の課題

音楽の授業だけでなく、ちょっとした時間や学活の時間などに、ミニ鑑賞を続けてきたことで、多くの児童が速さや曲の感じを聴きとり、そこから様子を思い浮かべられるようになった。中でも、曲名を当てるのがみんな好きだったようで、曲名を当てるために一生懸命音楽を聴くようになった。「おどるこねこ」の授業の日も、「今日は、この曲を聴いてみよう」というと、「やったー」という声が挙がり、とても意欲的に聴くことができた。また、ミニ鑑賞では、『音楽を表す言葉』を教えてきたので、多くの子が自分の感じたことや曲からイメージできる様子を自分なりの言葉で発表できるようになった。

しかし、「おどるこねこ」のBのような、曲のイメージをもとに動くところではしゃぎすぎてしまったようで、音に反応しているのか、元気に好きなように踊っているだけなのか、微妙な動きの子がいた。今後はもっと音楽の特徴に着目させ、様子を想像させながら鑑賞させていきたい。

アンケートを比較すると、実践前には「音楽を聴いて様子を思い浮かべるのがあまり好きではない」と答えていた児童が4%いたが、実践後には「あまり好きではない」という児童がいなくなった。(資料⑤)しかし、「音楽に合わせて体を動かすのは好きですか」の質問では、「すごく好き」と答えた児童の割合は増えたものの、「普通」と答えた児童の数も増えてしまった。(資料⑥)今後も引き続き、音楽を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、研究を深めていきたい。

